

■児童の学力の状況

〔全国学力調査の結果から〕  
 ○国語科・算数科共に全国の平均を下回っている。  
 ○国語科・算数科共に全国より個人差が大きい。  
 ○国語科においては、「関心・意欲・態度」の面が全国と比べて低くなっている。また、選択式の問題に比べ、短答式や記述式の問題を苦手としている傾向がある。  
 ○算数科においては、知識・理解面が全国を上回っている。また、図形領域においても、着実に力を付けている。その反面、数学的思考方について全国を下回っていること、記述式の問題形式を苦手としていることなど、筋道立てて考え表現することが課題となっている。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○「カリキュラムマネジメント」をテーマに校内研究を進めている。まだ端緒についたばかりであり、さらに研究を深めていく必要がある。  
 ○対話的な授業を行うための指導技術が不十分である。そのため一問一答式のやり取りになりがちである。  
 ○まとめや振り返りを通して、より深い理解に導く指導を繰り返す必要がある。  
 ○文章から必要な情報を読み取るための指導、読み取った情報を適切に活用する技術指導が不足している。  
 ○基礎・基本の定着を含め、個に応じた指導を更に進めていく必要がある。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

\* 教員一人一人の指導力の向上を通して、「分かる授業、魅力ある授業」を展開する。  
 【各教員の指導力向上】各教員が授業に対して自己分析を行い、課題を明確にした上で授業改善を行う。  
 【板橋区授業スタンダードの確実な実施】授業の中で初めに学習のねらいを明確に示し、終わりに学んだことを振り返らせるなど、全教員が板橋区授業スタンダードを確実に実施する。  
 【週案簿の適切な活用】週案に1単位時間で身に付けさせたい力(本時のねらい)を明確にし、授業に臨む。  
 【校内研究財産の活用】前年度、板橋区研究奨励校としてアクティブラーニングの研究に取り組んだ成果を他教科・領域でも生かしていく。(「板十流授業づくり5箇条」の活用)  
 【ICT機器の活用】ICT機器、思考ツールなどの活用を通して、児童の学習意欲や関心を高め思考力を育成する。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
問題解決型・探究型の授業	協働学習の導入	指導と評価と支援の一体化
○児童がすすんで活動したくなる課題を準備し、発問を工夫する。 ○探究・解決のための見通しをもたせる。 ○個別指導の充実を通して、一人一人に考えや答えをもたせる。 ○まとめや振り返りの場面において、見方・考え方を示すと共に、ねらいに合致した意見を学級全体に広げ、一人一人の考えの深化をめざす。	○発問や指示を工夫し、子ども同士が発言(思考)をつなげていく授業スタイルを通して、学びを促す。 ○まなボードやスモールホワイトボードなどを有効に活用し、グループでの話し合い、学び合いを活性化させる。 ○書いたものを互いに読み合う活動等を積極的に取り入れ、協働的な学びが成立する授業を推進していく。	○よい発言をその場で価値付け、他の児童へのモデルとさせていく。 ○学習の成果を的確に評価し、自信を付けさせると共に、次の学習や他教科への意欲につなげる。 ○授業の中で評価を個別に行い、即時的に指導を行う。

■いたばし学び支援プラン2021の実現に向けた取組

授業におけるマナー・ルールの徹底	学習環境の充実	教員の指導力向上
○「板十マモリン」【学習のやくそく】について教員共通理解し、歩調を合わせて指導していく。 ○特に ・はじまりおわり きちんとあいさつ ・手をあげて 指名されたら「はい」と返事 ・聞くときも おしゃべりせずに最後まで の3点の約束について重点的に指導していく。	○整理・整頓に努め、児童が学習に集中できる環境を整える。 ○児童の作品・学習のポイントをまとめた掲示物・よいノートの見本などを計画的に掲示する。 ○教室前面の掲示を簡素にする等、教室環境のユニバーサルデザインに努める。	○毎日が研修という意識を常にもち、日常の授業の質の向上を図る。 ○研究授業の日常化、学年会、OJTやOff-JTでの初任者・若手教員の指導を通して、教員の授業力向上をめざす。